

# 諏訪の景気動向

平成28年2月

(平成28年 1月末 D・I調査)

平成28年2月25日

岡谷市郷田二丁目1番8号

諏訪信用金庫

## 諏訪地方の景気動向（平成 28 年 1 月末調査）

「平成 28 年 1 月末アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

【概況】 諏訪地方 194 社のご協力を得て行った平成 28 年 1 月末の「景気動向調査(DI調査)」では、回答全社の「3 ヶ月前」と比べた業況判断DIは $\Delta 21.1$ となり、前回調査時(平成 27 年 10 月末、以下同)の $\Delta 6.0$ から、15.1ポイント悪化した。製造業の業況判断DIは $\Delta 22.7$ で、前回の $\Delta 11.6$ から11.1ポイント悪化した。また、非製造業(商業、観光・サービス業、建設業)の同DIも $\Delta 17.7$ で、前回の 6.3 から 24.0ポイント悪化した。一方、「3 ヶ月後」の業況予想DIは、製造業が 1.5(前回 $\Delta 2.9$ )、非製造業は 12.9(前回 $\Delta 4.8$ )と改善傾向を示し、回答全社でも 5.2(前回 $\Delta 3.5$ )となっている。1 月は中国不安と原油安の共振などで世界景気に先行き不透明感が広がり、日銀のマイナス金利政策など金融市場も歴史的な動きとなった。諏訪地方では天候の極端な乱高下が各方面に影響を及ぼした。今後は、御柱祭が地区内景気押し上げの要因の 1 つとして期待されている。

**製造業**は業況判断DI、受注状況DI、収益性DIとも「3 ヶ月前」に比べて前回調査時から悪化幅が広がったが、「前年同期」との比較では、同水準かやや改善傾向となっている。また、「3 ヶ月後」の予想DIはわずかながら改善傾向となっている。現状は取引先や取扱い製品などによって業況はまだら模様が続き、世界経済の影響を受けている取引先からの受注が減少したり、在庫調整の影響を受ける企業がある。大手企業の設備計画の不透明要因は増えているものの、春先からの受注増が予定されている企業もあり、「3 ヶ月後」は、おおむね横ばいか若干増加の方向で推移するという見方が多い。

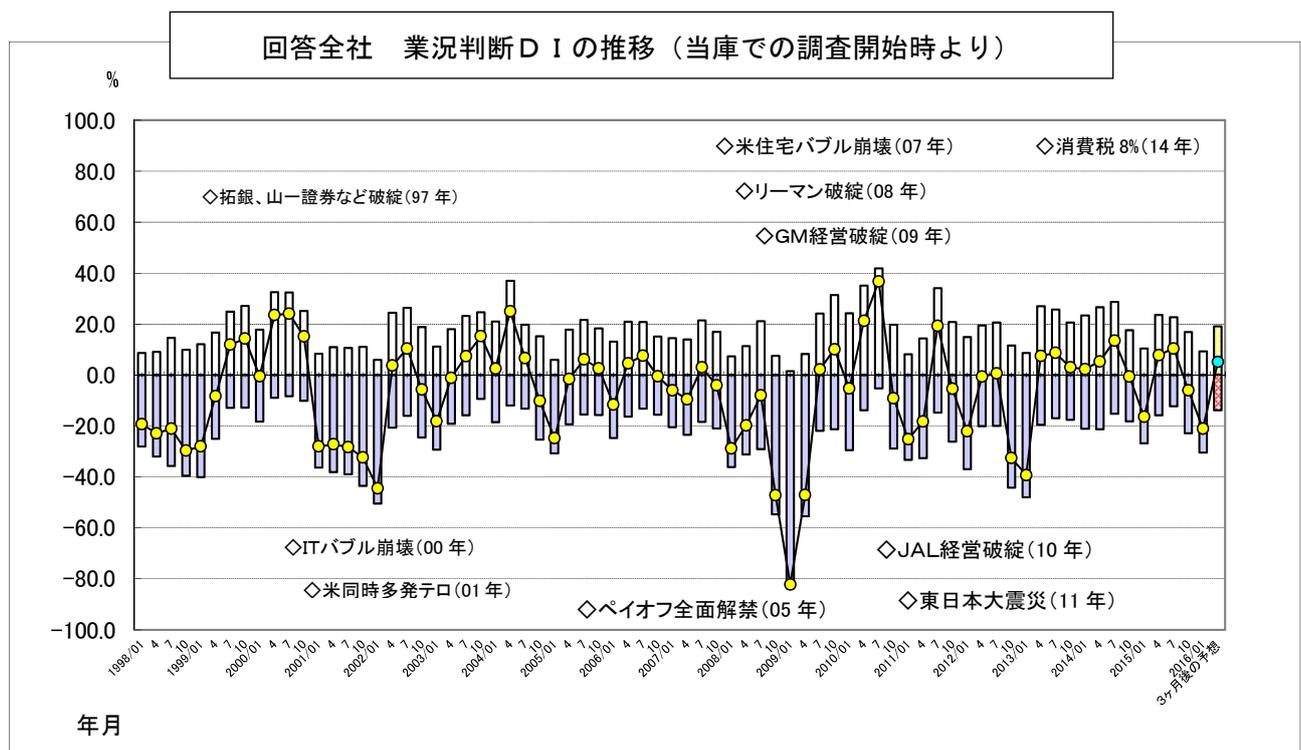
原油安の影響で燃料などのエネルギーコストは、「3 ヶ月前」と比べて 28.0%の企業が「低下」し、「上昇」の 9.8%を大きく上回っている。また、「前年同期」比でも 34.8%の企業が「低下」し、「3 ヶ月後」の予想も 20.5%の企業が「低下」予想をしている。

**商業**は、業況判断DIは「3 ヶ月前」と比べて $\Delta 16.7$ で、前回の 6.5 から悪化し、「前年同期」比でも $\Delta 6.6$ と、前回の 29.0 から大幅悪化している。来店客数DIは「3 ヶ月前」比は前回の 3.3 から $\Delta 40.0$ と大幅悪化し、「前年同期」比でも $\Delta 16.7$ と前回の 3.2 から悪化している。客単価DIは「3 ヶ月前」比で前回の $\Delta 16.1$ から $\Delta 3.3$ へ改善した。「3 ヶ月後」の業況予想DIは 6.6 でプラス水準だが、前回の 9.7 からやや悪化している。収益性予想DIも $\Delta 3.3$ で、前回の 12.9 より悪化予想の企業が増えている。労働力確保が困難な中で、店舗間競争が激化し、売上減少が課題となっている。自動車販売は、諏訪地方の 1 月の車庫証明件数(軽自動車除く)が 813 件で、前年同月比では 16 件増加(2.0%)した。

**観光・サービス業**は、季節要因があり「3 ヶ月前」と比べた業況判断DIは $\Delta 25.0$ と、前回調査時の 5.9 から悪化した。「前年同期比」では、宿泊客数DIは $\Delta 6.2$ で前年よりやや減少したものの、業況判断DIと売上DIは 0.0 で、ほぼ同水準となっている。材料コストは 37.5%の企業が前年より上昇したとしている一方で、エネルギーコストは 50.0%の企業が低下したとしている。「3 ヶ月後」は季節要因に加えて御柱祭があることから、業況予想DIは 37.5、宿泊客数予想DIは 31.3、売上予想DIが 50.0、客単価予想DIが 12.5 といずれも好転予想の企業が多い。ただ、労働力の確保は依然大きな課題となっている。

建設業の業況判断DIは、「3ヶ月前」と比べて△12.5で前回調査時の6.6から悪化した。「前年同期」比では△18.8で前回の△20.0とほぼ同様な動きとなっている。「3ヶ月後」の業況予想DIは0.0で、前回の△6.7より改善しているが、先行きに対する見方が分かれている。受注状況DIを見ると、「3ヶ月前」比は△25.0で前回の6.6から大幅悪化、「前年同期」比でも△31.3と前回の△26.6より悪化し、「3ヶ月後」の予想も△25.0で前回の△6.6から悪化予想が大幅に増えている。公共工事の減少などで受注量が減少傾向となり、足元では受注を確保していても、先行きに不透明感を持つ企業は多い。諏訪地方の平成27年12月の新設住宅着工戸数は85戸で、前年同月比4戸増加(4.9%)した。平成27年4月～12月の累計着工戸数は787戸で、前年同期比16戸減少(△2.0%)した。平成28年1月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は15件88百万円だった。また、市町村からの受注工事は、御柱祭関連工事が多く合計63件、346百万円で、前年同月比27件、176百万円増加した。

雇用状況は、平成27年12月の諏訪地方の有効求人倍率が、前年同月を0.26ポイント上回り、前月を0.01ポイント下回る1.31倍となった。31ヶ月連続で前年同月を上回り、1倍台は21ヶ月連続となった。長野県は1.26倍で、全国(1.27倍)を18ヶ月ぶりに下回ったが、製造業や小売業を中心に、求人は伸びている。諏訪地方は、新規求人数(全数)が1,407人で前年同月比64人増加(4.8%)した。このうち、正社員求人の割合は37.1%で、前年同月比は2.8%上回ったが、40%を下回る低い水準が続いている。新規求職者数は759人で前年同月比27人減少(△3.4%)している。産業別の前年同月比の新規求人数は、製造業で39.2%、運輸業で24.0%増加し、建設業で25.3%減少した。求人要因別では「継続する人員不足」「欠員補充」が増加し、「業務量増大」「創業・新分野展開」が減少した。1件10人以上の人員整理はなく、事業主都合による雇用保険資格喪失者は55人で、前年同月より13人減少し、前月より5人減少した。



## 業況判断DIの推移 「3ヶ月前と比較して」

回答全社(194社)の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは、「好転」企業が9.3%、「横這」企業が60.3%、「悪化」企業が30.4%で△21.1と、前回調査時の△6.0から15.1ポイント悪化した。前回に比べて、製造業は、「好転」企業が14.5%から9.1%へ減少し、「悪化」企業が26.1%から31.8%へ増加した。世界経済減速の影響を受ける取引先からの受注減少、コストダウン要請などが悪化要因となっている。非製造業は、観光業の季節要因はあるが、「好転」企業が前回の22.2%から9.7%へ減少し、「悪化」企業は15.9%から27.4%へ増加した。暖冬が冬季施設の営業や衣料、除雪、暖房関連商品へ影響を及ぼした。3ヶ月前と比べた業況判断DIは、全ての業種でマイナス水準となり、諏訪地方の景況感は総体的に低調な動きとなっている。

産業別業況表

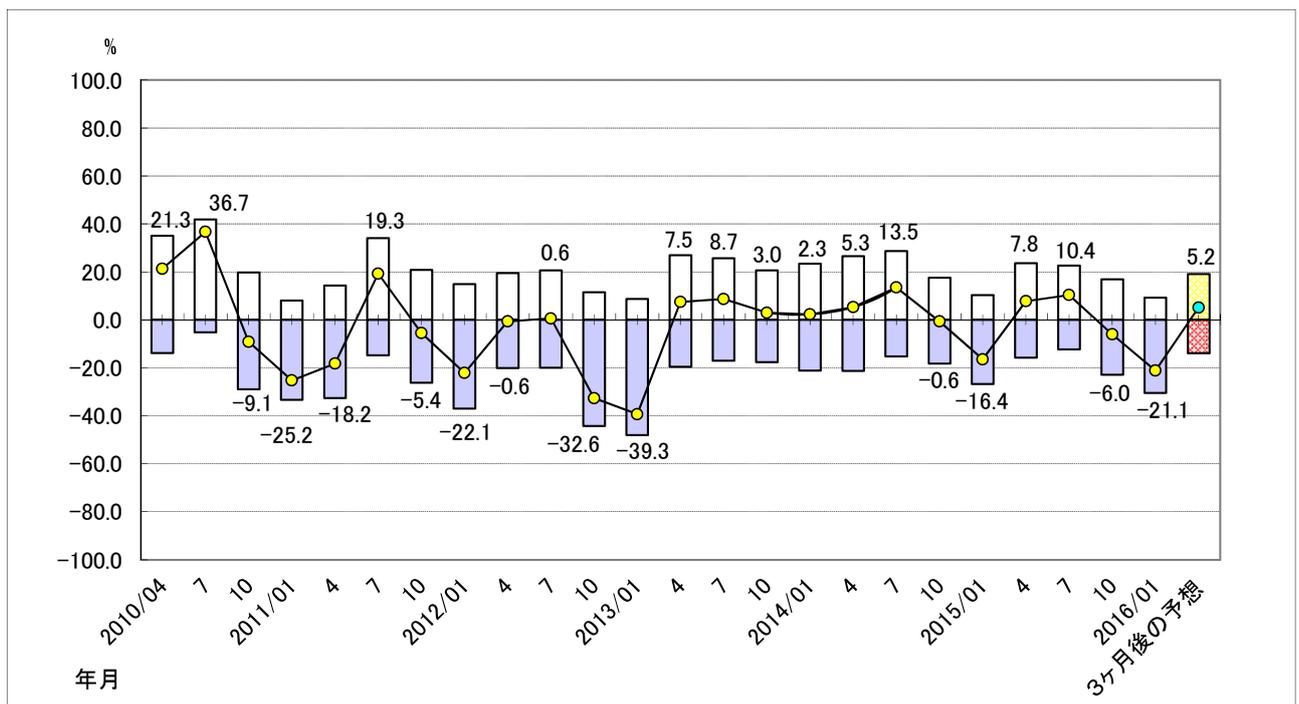
(企業数・%) 表-1

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全体	194	9.3	60.3	30.4	-21.1	194	17.0	52.6	30.4	-13.4	194	19.1	67.0	13.9	5.2
製造業	132	9.1	59.1	31.8	-22.7	132	15.9	52.3	31.8	-15.9	132	15.9	69.7	14.4	1.5
非製造業	62	9.7	62.9	27.4	-17.7	62	19.4	53.2	27.4	-8.0	62	25.8	61.3	12.9	12.9
商業	30	10.0	63.3	26.7	-16.7	30	16.7	60.0	23.3	-6.6	30	23.3	60.0	16.7	6.6
建設業	16	6.3	75.0	18.8	-12.5	16	12.5	56.3	31.3	-18.8	16	12.5	75.0	12.5	0.0
観光・サービス	16	12.5	50.0	37.5	-25.0	16	31.3	37.5	31.3	0.0	16	43.8	50.0	6.3	37.5

### 自社業況判断DIの推移

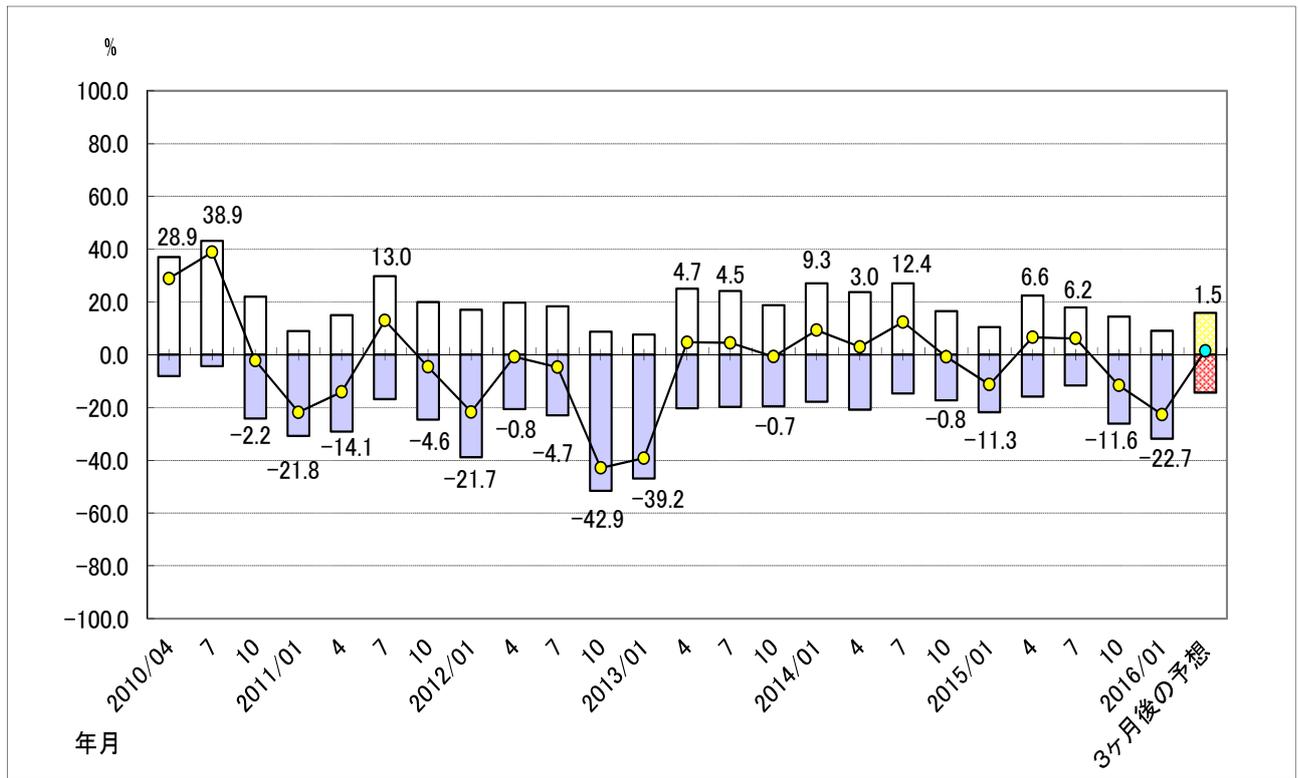
#### ● 回答全社:「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-1



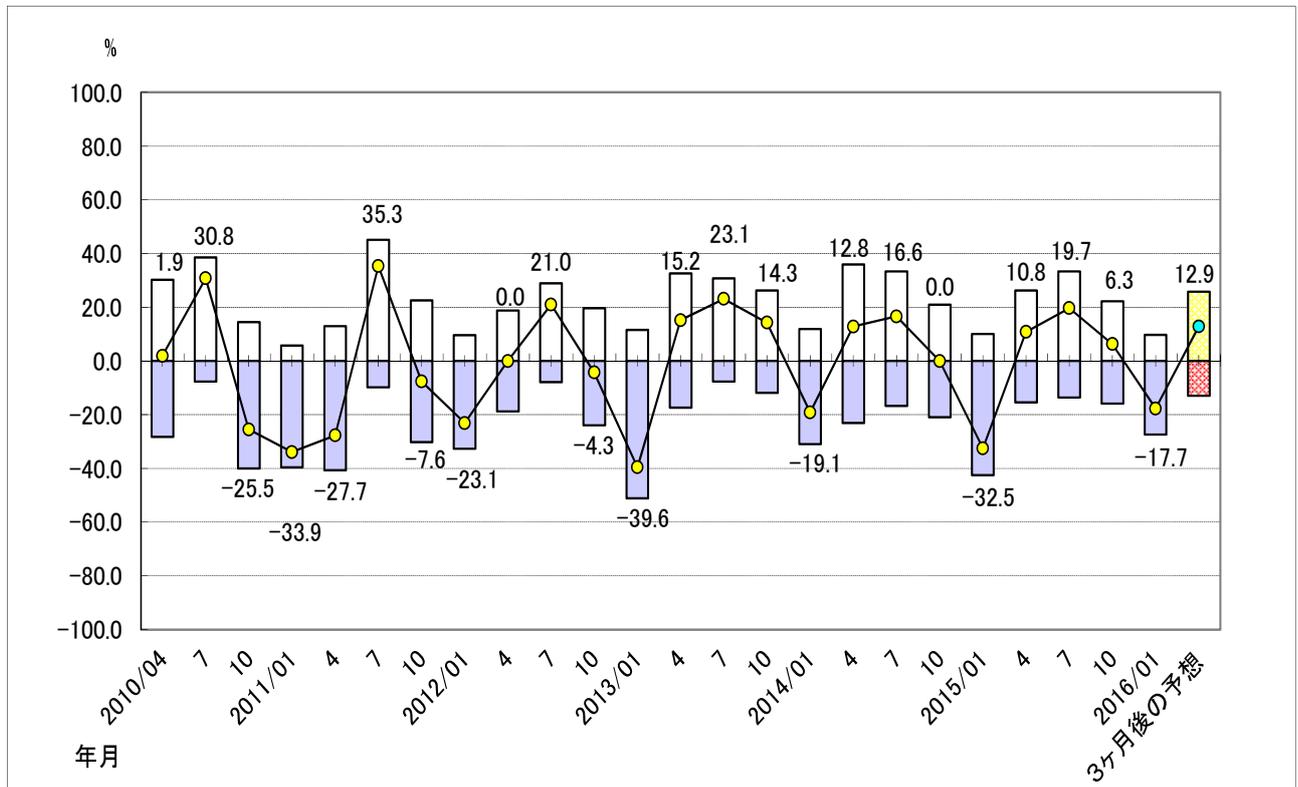
●製造業：「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー2



●非製造業：「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー3



## 産業別景気動向

### 1.製造業

業況判断DIは、「3ヶ月前」比で△22.7と、前回調査時の△11.6から11.1ポイント悪化した。一方、「前年同期」比は△15.9で、前回の△18.1から2.2ポイント改善し、「3ヶ月後」の予想も1.5で、前回の△2.9から4.4ポイント改善し、わずかながらプラス水準となっている。

受注状況DIは、「3ヶ月前」と比べて△28.0と、前回の△14.5から13.5ポイント悪化した。「前年同期」比は前回の△18.9と同水準で推移し、「3ヶ月後」の予想DIは△1.5で、マイナス水準ながら前回の△7.3からやや改善している。

収益性DIは、「3ヶ月前」比で△24.2と前回の△19.0から5.2ポイント悪化した。「前年同期」比では前回の△26.3から△18.9へ7.4ポイント改善した。「3ヶ月後」の予想は△8.4で、前回の△14.5より6.1ポイント改善し悪化幅が減少している。

原油安に伴うガソリンなどのエネルギーコストは3ヶ月前に比べて28.0%、前年同期比では34.8%の企業が低下し、「工場内の暖房費や製品の輸送費などが節約できて助かる」という声がある。一方で、コストダウン要請が厳しさを増し、「材料費が下がった分、取引先から製品単価を引き下げられた」という企業もあった。

業種別(主要5業種)の業況判断DIは、「3ヶ月前」と比べて「金属製品」が△25.0(前回△26.3)、「精密機械」が0.0(同0.0)、「電気機械」が△26.6(前回△26.7)とほぼ同水準で推移した。「輸送用機械」は△28.6(同△6.2)、「一般機械」は△14.3(同△2.7)とそれぞれ悪化した。「前年同期」比では「金属製品」が△20.0(同△42.1)で改善し、「輸送用機械」が△21.4(同△18.8)、「精密機械」が9.1(同11.1)と悪化幅が広がり、「一般機械」は0.0(同0.0)、「電気機械」が△30.0(同△30.0)と同水準だった。「3ヶ月後」の予想DIは、「一般機械」が2.9(同△5.3)、「精密機械」が△9.1(同△11.1)と好転予想が前回より上回り、「金属製品」は0.0(同0.0)、「電気機械」は3.4(同3.3)とほぼ同水準となった。「輸送用機械」は△14.3(同△12.5)でやや悪化予想が上回った。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-2

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	
製造業	132	9.1	59.1	31.8	-22.7	132	15.9	52.3	31.8	-15.9	132	15.9	69.7	14.4	1.5	
規模	1~29人	70	5.7	60.0	34.3	-28.6	70	17.1	55.7	27.1	-10.0	70	12.9	70.0	17.1	-4.2
	30~99人	44	13.6	56.8	29.5	-15.9	44	15.9	47.7	36.4	-20.5	44	20.5	68.2	11.4	9.1
	100人~	18	11.1	61.1	27.8	-16.7	18	11.1	50.0	38.9	-27.8	18	16.7	72.2	11.1	5.6
分類	金属製品製造業	20	10.0	55.0	35.0	-25.0	20	10.0	60.0	30.0	-20.0	20	15.0	70.0	15.0	0.0
	一般機械器具製造業	35	5.7	74.3	20.0	-14.3	35	22.9	54.3	22.9	0.0	35	14.3	74.3	11.4	2.9
	電気機械器具製造業	30	6.7	60.0	33.3	-26.6	30	10.0	50.0	40.0	-30.0	30	16.7	70.0	13.3	3.4
	輸送用機械器具製造業	14	7.1	57.1	35.7	-28.6	14	14.3	50.0	35.7	-21.4	14	7.1	71.4	21.4	-14.3
	精密機械器具製造業	11	36.4	27.3	36.4	0.0	11	27.3	54.5	18.2	9.1	11	18.2	54.5	27.3	-9.1

## ① 諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

### ● 金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

業況判断DIは、「3ヶ月前」と比べて $\Delta 25.0$ で、前回調査時の $\Delta 26.3$ からやや改善し、前回5業種中最も悪化した「前年同期」比も $\Delta 20.0$ (前回 $\Delta 42.1$ )で改善した。「3ヶ月後」の予想は0.0で前回と同様だった。主力取引先からの受注が減少した企業の一方で、底を売打ったと感じる企業もあり、安定的でなく波が激しい状況が続いている。自動車部品関連では、単価引き下げ要請が強く売上に影響している企業がある。

### ● 一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械、半導体関連製造設備など)

業況判断DIは、「3ヶ月前」と比べて $\Delta 14.3$ で、前回の $\Delta 2.7$ から11.6ポイント悪化した。「前年同期」比は0.0で前回と同様で、「3ヶ月後」の予想は2.9と前回の $\Delta 5.3$ から改善している。中国向けは、製造品によって堅調に推移している企業もあるが、当初計画より受注量が減少した企業もありまちまち。堅調な医療機械関連機械の受注を確保している企業は、先行きも安定的な見通しがある。

### ● 電気機械(家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど)

業況判断DIは、「3ヶ月前」比で $\Delta 26.6$ と、前回の $\Delta 26.7$ とほぼ同率で、「前年同期」比も $\Delta 30.0$ で前回と同率、「3ヶ月後」の予想も3.4で、前回の3.3と同水準で推移している。スマホ基地局などの光通信関連や首都圏のビル建設に伴う電源関連は堅調に推移しているが、自動車関連の蓄電池などには一服感がある。一部の取り扱い製品で増加しても総体的には、受注が減少している企業もある。

### ● 輸送用機械(自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など)

業況判断DIは「3ヶ月前」と比べて $\Delta 28.6$ で、前回の $\Delta 6.2$ から大幅悪化した。「好転」企業が前回の18.8%から7.1%に減り、「悪化」企業が前回の25.0%から35.7%に増加した。「前年同期」比は $\Delta 21.4$ で、前回の $\Delta 18.8$ から悪化幅が広がった。「3ヶ月後」の予想は $\Delta 14.3$ で前回の $\Delta 12.5$ から悪化している。自動車関連は一部車種には動きがあるが、総体的には低調な動きとなっている。重機関連の部品加工も中国の需要減少に伴い減少した。市場規模が小さい船外機は、中国経済減速の影響は受けていない。

### ● 精密機械(時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など)

業況判断DIは「3ヶ月前」と比べて0.0で、前回と同率だった。「3ヶ月後」の予想は、前回88.9%だった横這い予想が今回は54.5%になり、「好転」「悪化」とも増加し、見方が分かれている。レンズ業界全体の受注量が減少する中で、医療機器、研究機関向けの高難度加工レンズの受注は旺盛。納期遅れが発生した企業もあり、技術力がある企業に受注が集中する傾向となっている。

## ② 規模別業況

業況判断DIは、「3ヶ月前」と比べて「1~29人」規模は $\Delta 28.6$ で前回の $\Delta 14.3$ から悪化し、「30~99人」規模は $\Delta 15.9$ で前回と同率、「100人以上」規模は $\Delta 16.7$ で前回の11.7から大幅悪化した。「前年同期」比は「1~29人」規模が $\Delta 10.0$ で前回の $\Delta 18.2$ から改善、「30~99人」規模が $\Delta 20.5$ で前回と同率、

「100人以上」規模も△27.8で前回の△11.8より悪化した。「3ヶ月後」の予想は、「1～29人」規模が△4.2で前回の△9.1より改善し、「30～99人」規模も9.1で前回の2.3から改善し、「100人以上」規模は5.6で前回の11.7より悪化した。

### ③受注状況DI(規模別、業種別)

製造業全社の「3ヶ月前」と比べた受注状況DIは、「増加」企業11.4%、「減少」企業39.4%で△28.0と、前回調査時の△14.5から悪化している。「前年同期」比は前回の△18.9と同率だった。「3ヶ月後」の予想は「増加」を「減少」が上回る△1.5だが、前回の△7.3からは改善している。

規模別の受注状況DIは、「3ヶ月前」と比べて「1～29人企業」は△34.3で、前回の△14.3から悪化した。「30～99人企業」は△25.0で、前回と同率。「100人以上企業」は△11.1で前回の11.7から悪化している。「前年同期」比では「1～29人企業」が△17.2で前回△16.9とほぼ同水準で、「30～99人企業」は前回の△25.0と同率、「100人以上企業」も△11.1で前回の△11.8とほぼ同様に推移している。「3ヶ月後」の予想は「1～29人企業」が△5.8で前回の△13.0から改善し、「30～99人企業」も前回の△2.3から4.5へ改善した。「100人以上企業」は0.0で前回の5.8から悪化した。

業種別(主要5業種)の「3ヶ月前」比は、「金属製品」が△21.0から△45.0、「一般機械」は△13.1から△22.9、「輸送用機械」は0.0から△28.6へ悪化した。一方、「精密機械」は前回の△22.2から0.0、「電気機械」は前回の△26.7から△23.3へ改善した。「前年同期」比は、「輸送機械」が△12.5から△35.8、「一般機械」が△10.5から△17.1へ悪化し、「精密機械」は△11.1から36.4、「電気機械」は△26.7から△20.0、「金属製品」は△36.9から△35.0と改善した。「3ヶ月後」の予想は、「精密機械」が前回の11.1から△18.2、「金属製品」が△5.2から△15.0へ悪化し、「一般機械」は前回の△13.1から△2.9、「輸送用機械」は△12.5から△7.1、「電気機械」は0.0から3.3へ改善している。

業種別・規模別受注状況表

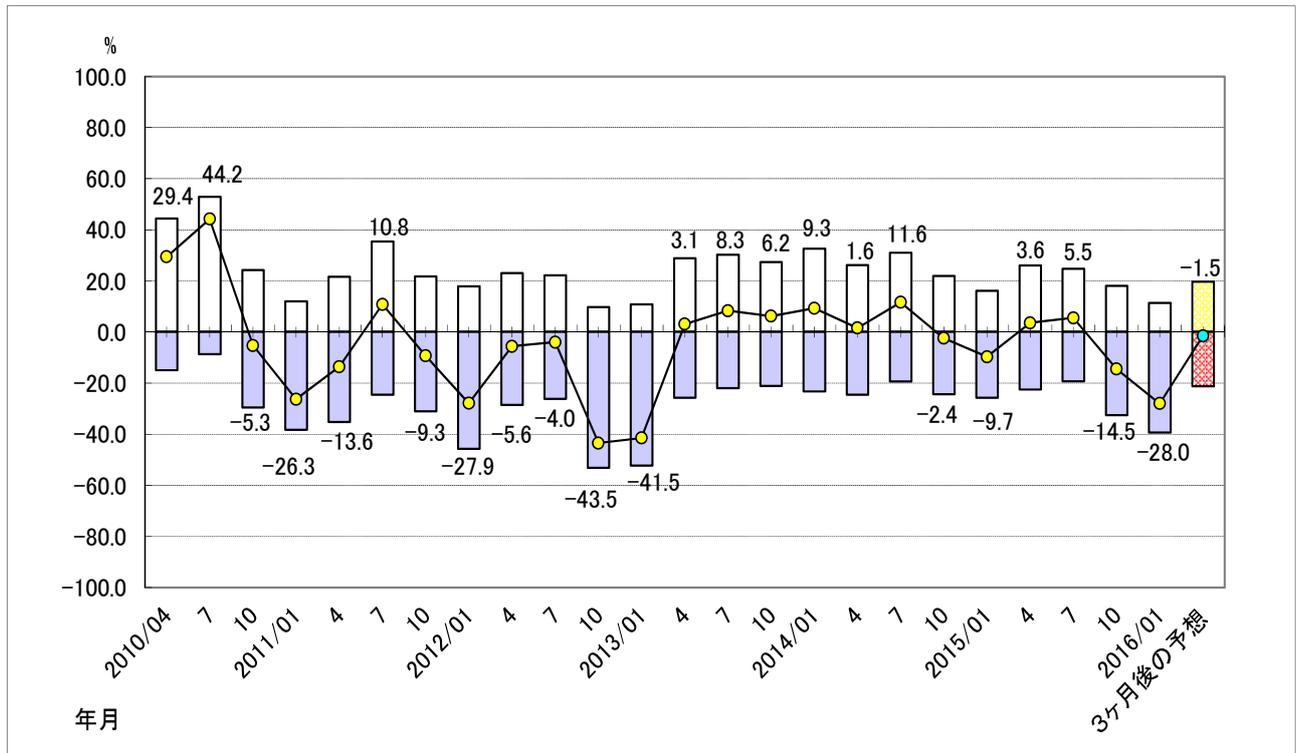
表-3

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	
製造業	132	11.4	49.2	39.4	-28.0	132	18.2	44.7	37.1	-18.9	132	19.7	59.1	21.2	-1.5	
規模	1～29人	70	7.1	51.4	41.4	-34.3	70	17.1	48.6	34.3	-17.2	70	17.1	60.0	22.9	-5.8
	30～99人	44	13.6	47.7	38.6	-25.0	44	18.2	38.6	43.2	-25.0	44	22.7	59.1	18.2	4.5
	100人～	18	22.2	44.4	33.3	-11.1	18	22.2	44.4	33.3	-11.1	18	22.2	55.6	22.2	0.0
分類	金属製品製造業	20	0.0	55.0	45.0	-45.0	20	15.0	35.0	50.0	-35.0	20	10.0	65.0	25.0	-15.0
	一般機械器具製造業	35	11.4	54.3	34.3	-22.9	35	14.3	54.3	31.4	-17.1	35	20.0	57.1	22.9	-2.9
	電気機械器具製造業	30	16.7	43.3	40.0	-23.3	30	20.0	40.0	40.0	-20.0	30	23.3	56.7	20.0	3.3
	輸送用機械器具製造業	14	7.1	57.1	35.7	-28.6	14	7.1	50.0	42.9	-35.8	14	14.3	64.3	21.4	-7.1
	精密機械器具製造業	11	36.4	27.3	36.4	0.0	11	45.5	45.5	9.1	36.4	11	18.2	45.5	36.4	-18.2

製造業の受注状況DIの推移

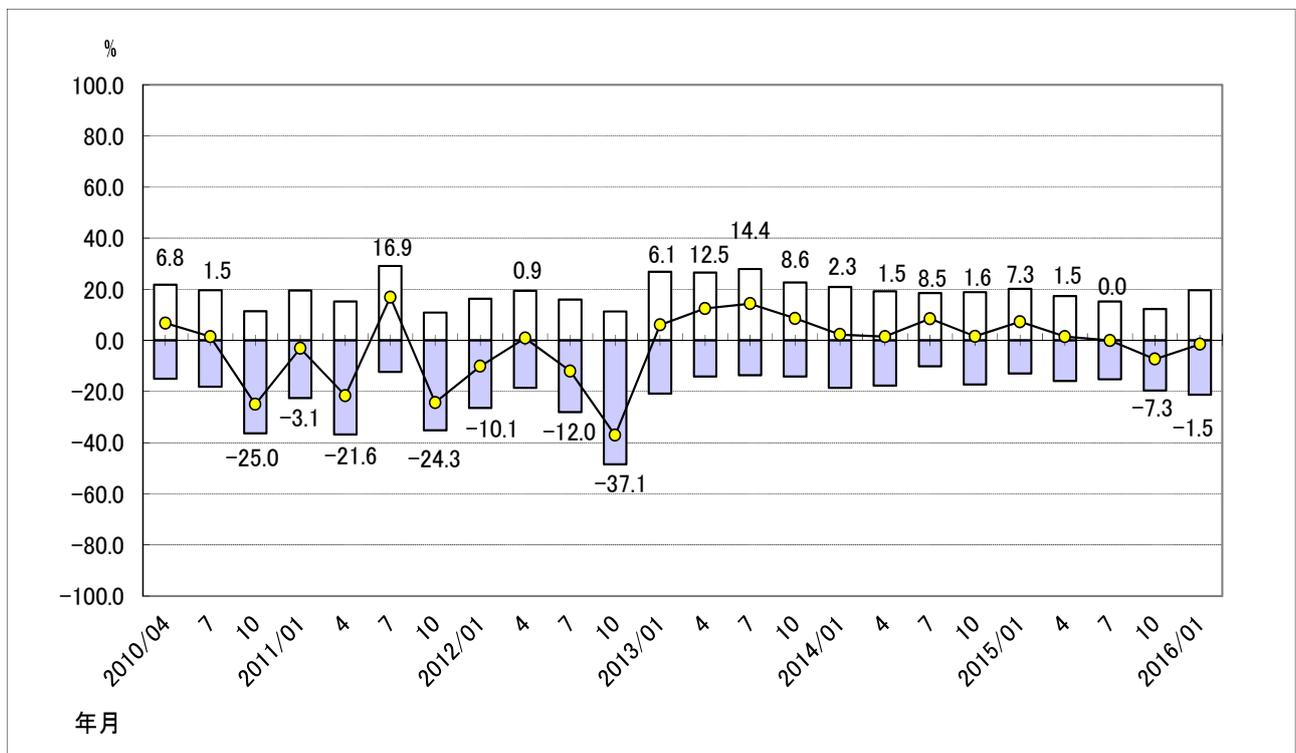
●製造業全社:「3ヶ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー4



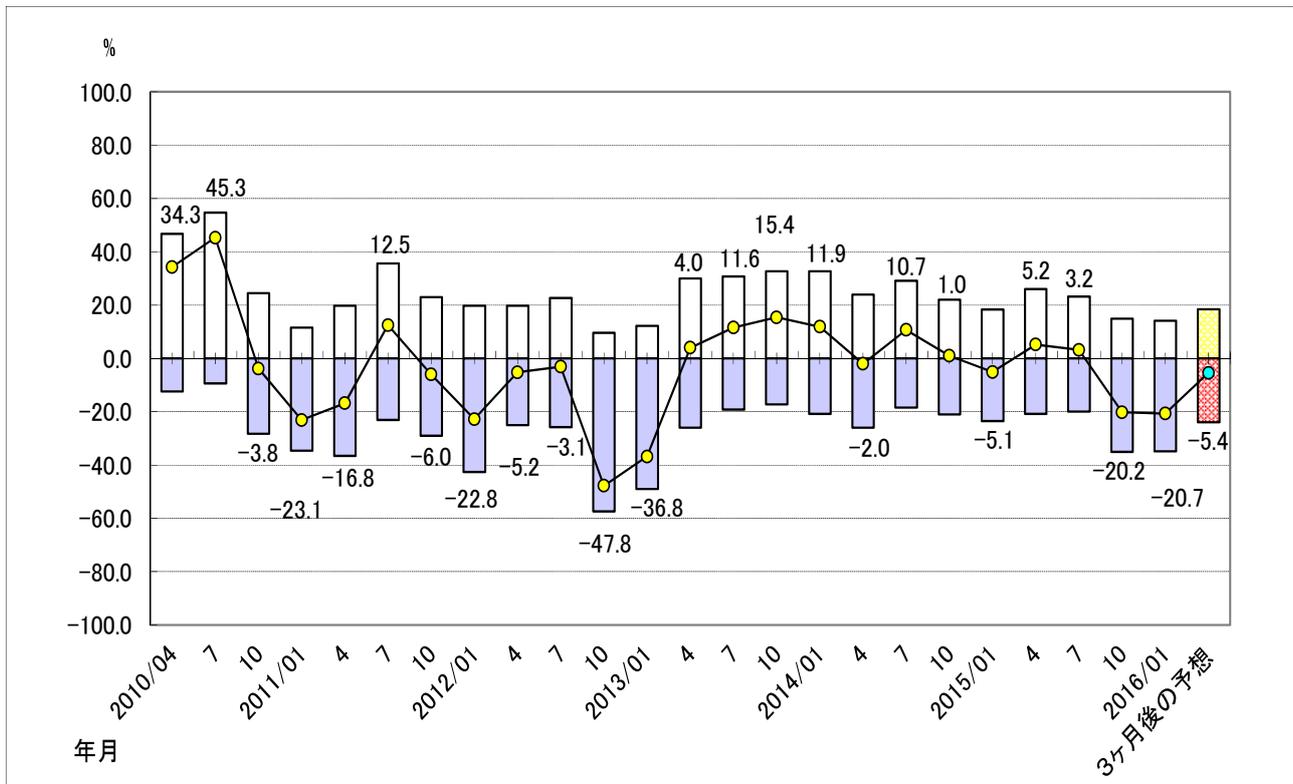
●製造業全社:「3ヶ月後」の受注予想DIの推移

グラフー5



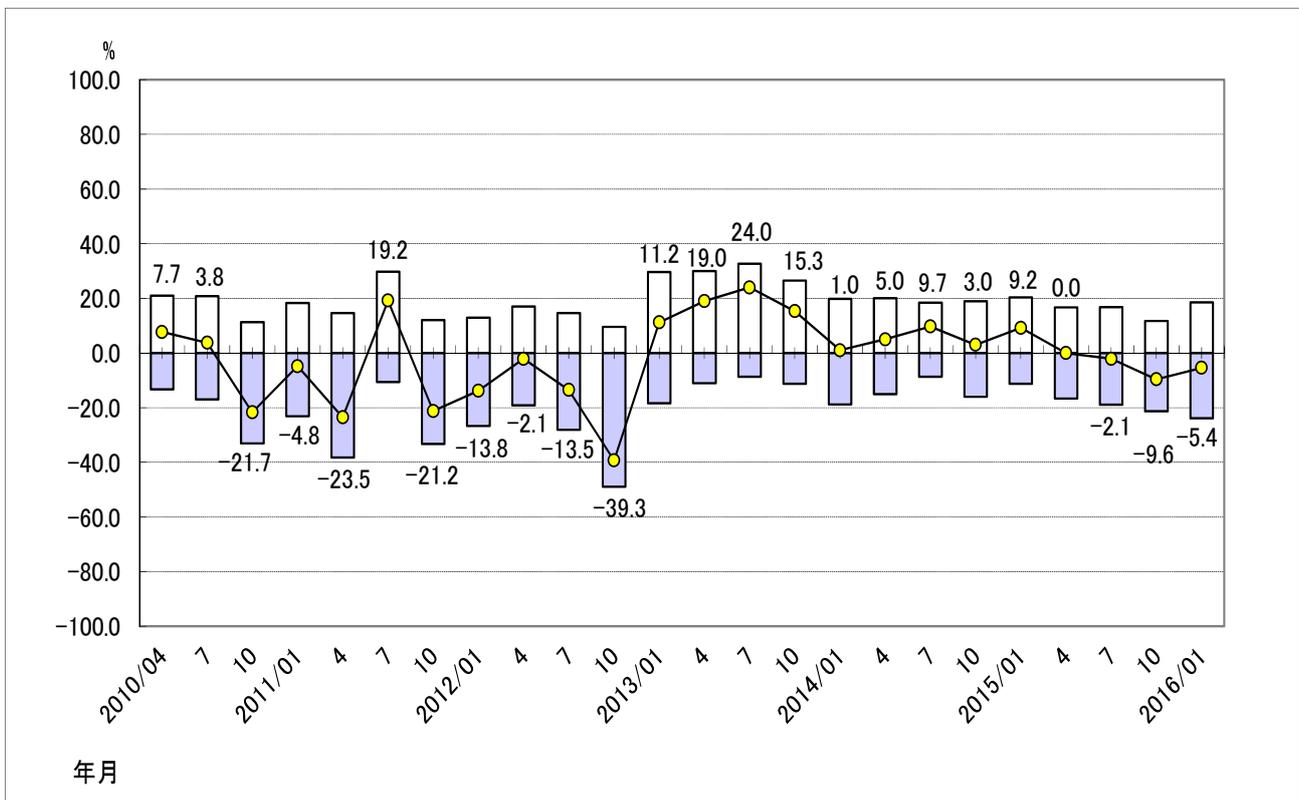
●製造業 主要5業種:「3ヶ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー6



●製造業 主要5業種:「3ヶ月後」の受注予想DIの推移

グラフー7



## 2.商業・観光サービス業

### ①商業

諏訪地方の1月の天候は、上旬は平年を上回り、4日の最高気温は1945年の長野地方気象台観測開始以来1月としては3番目の高さだったが、下旬は平年より低く、最低気温が氷点下10度前後の日が続いた。年末年始は長期休暇が取りにくい日並びもあり、三が日は手ごろなレジャーとして買い物や食事を楽しむ客で書店や飲食店がにぎわったが、降雪以降は一転して来客数が伸びず、落ち込む傾向となった。

- 食料品 1月下旬から雪の影響が出始め、野菜が値上がり傾向となり、鮮魚は天候の影響で近海ものが品薄傾向で高値となった。
- 衣料品 初売りがにぎわいスーツ類に動きがあったが、セーターなど冬物衣料の動きは鈍かった。
- 自動車 長野県内の1月の新車新規登録・届出台数は登録車が4,378台となり、前年同月比で3ヶ月連続増加した。軽自動車は3,807台で13ヶ月連続減少した。
- 家電店 月前半は気温が高く、ファンヒーターやストーブなどの暖房機器の動きが鈍かったが、冷え込みとともに、売れ行きが伸びた。
- ホームセンター 出足は遅かったが、降雪後から、雪かきや融雪剤の売れ行きが伸びた。

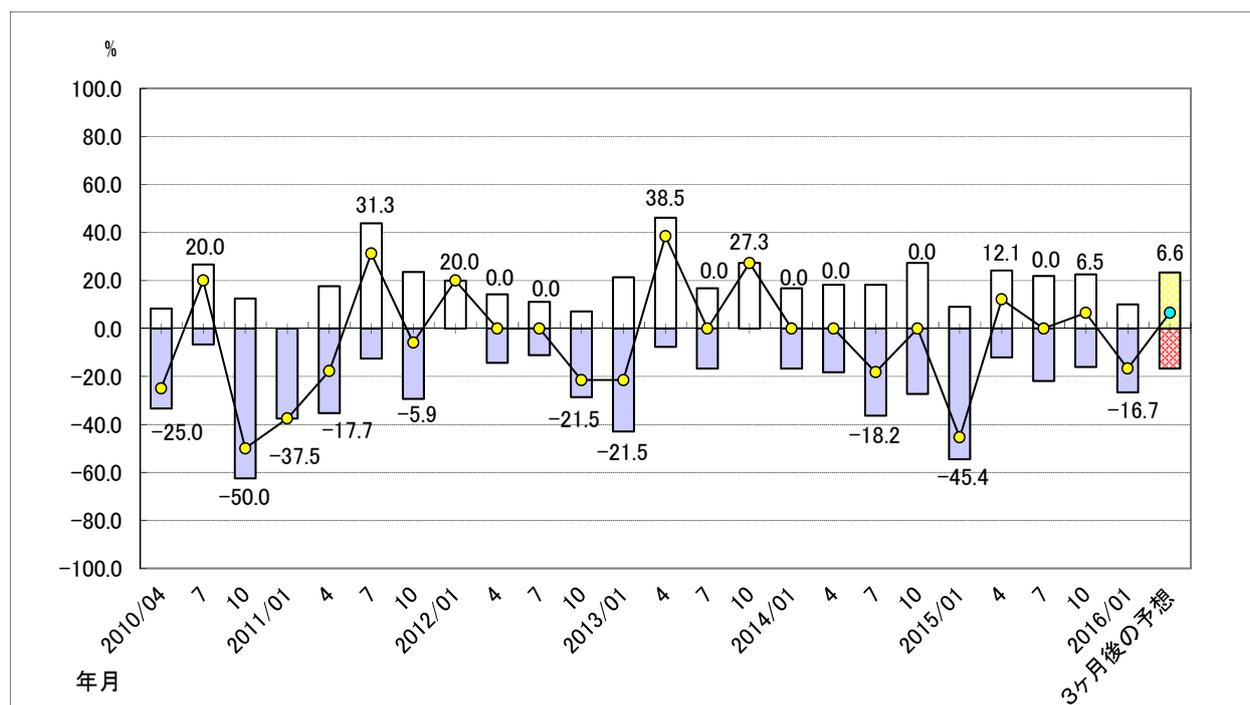
#### 業況、客単価、来店客数

表-4

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	30	10.0	63.3	26.7	-16.7	30	16.7	60.0	23.3	-6.6	30	23.3	60.0	16.7	6.6
客単価	30	16.7	63.3	20.0	-3.3	30	30.0	60.0	10.0	20.0	30	13.3	76.7	10.0	3.3
来店客数	30	3.3	53.3	43.3	-40.0	30	13.3	56.7	30.0	-16.7	30	13.3	66.7	20.0	-6.7

#### ●商業全社：「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-8



## ②観光・サービス業

「前年同期」比で、宿泊客数DIは△6.2とやや悪化した。業況判断DIは0.0で、総体的には前年同様に推移した。降雪量が多かった前年に比べ、今年は暖冬がスキー場などの冬季施設に影響を及ぼしている。客単価DIも△12.5でやや悪化した。エネルギーコストは低下した。一方、御柱祭が本格化する「3ヶ月後」の業況予想DIは37.5で、宿泊客数予想DIも31.3と好転予想が上回り、70%近い企業が売上の増加を予想している。

- 上諏訪温泉 1月の宿泊客数は施設によって前年同月比70%台～140%台と差はあるが、総体的には前年同月比増加した。関東、東海、近畿方面からの宿泊客が前年を上回っている。4月、5月は御柱祭とインバウンドの立山黒部アルペンルートで期待が持たれている。
- 蓼科・白樺湖・車山方面ほか 今年の傾向は、スキー客は例年並みだが、冬山登山やスノーシューの山歩きが減少している。軽井沢のスキーバス事故で、一時的に団体客に影響があった施設もある。富士見方面のスキー場はオープン当初の不調を挽回しつつある。
- 諏訪大社 上社・下社合わせた1月の参拝者数は約40万人で、前年同月比約9千人の増加(2.3%)となった。

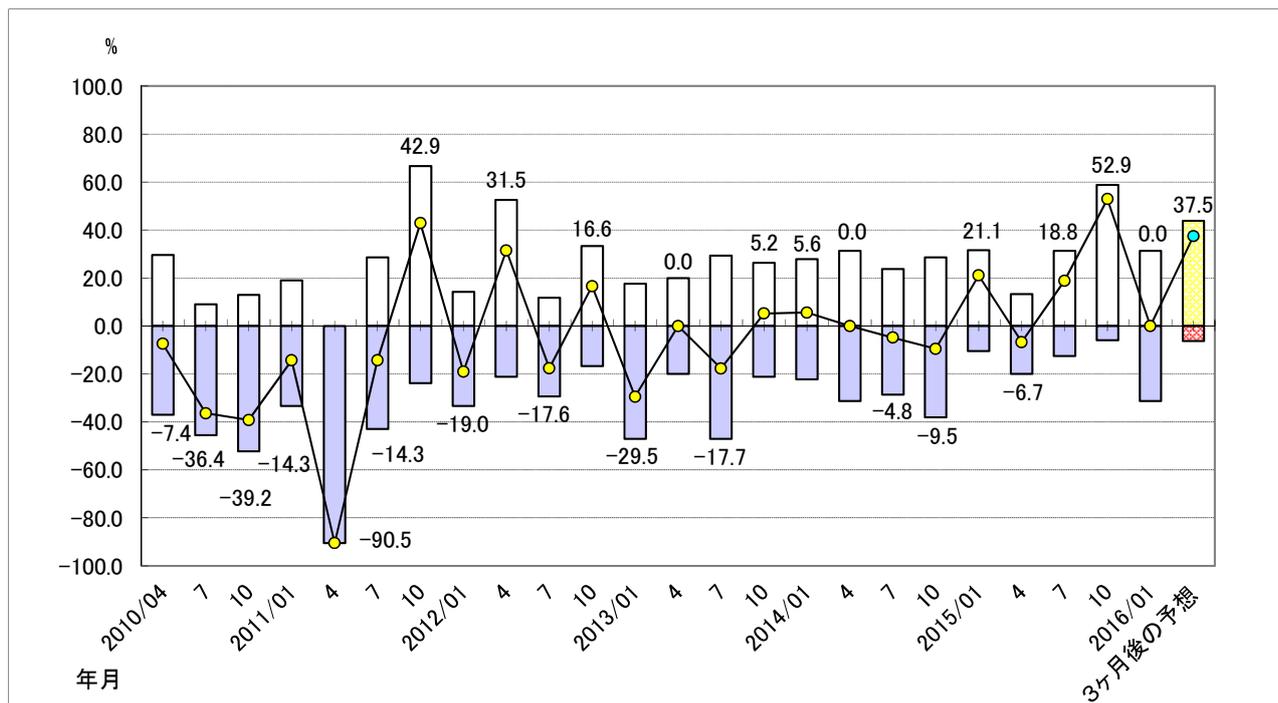
業況、売上、宿泊客

表-5

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	16	12.5	50.0	37.5	-25.0	16	31.3	37.5	31.3	0.0	16	43.8	50.0	6.3	37.5
客単価	16	12.5	56.3	31.3	-18.8	16	6.3	75.0	18.8	-12.5	16	25.0	62.5	12.5	12.5
宿泊客数	16	18.8	12.5	68.8	-50.0	16	31.3	31.3	37.5	-6.2	16	56.3	18.8	25.0	31.3

## ●観光・サービス業全社:「前年同期」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-9



### 3.建設業

公共工事は、道路や河川の既存インフラの改修を主に、小口化が顕著となっている。売上DIは「3ヶ月前」比で△31.2と前回の13.4より悪化した。「前年同期」比では△25.0と前回の△33.3より改善したが、悪化企業が上回っている。収益性DIの「3ヶ月前」比も△18.8で前回の△6.6から悪化している。御柱祭で業者が本業に注力できないこともあり、しばらく低迷するという声もある。

#### ●建築工事

諏訪地方の平成27年12月の各市町村の新設住宅着工戸数は岡谷市21戸、諏訪市12戸、茅野市31戸、諏訪郡21戸の合計85戸だった。持家は前年同月比で6戸減少し、貸家は5戸増加している。長野県全体の12月の新設住宅着工戸数は885戸で、前年同月比14.6%減少した。

#### ●公共工事

平成28年1月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は、諏訪建設事務所15件88百万円だった。平成27年4月～平成28年1月の累計は127件、3,502百万円で、前年同期比で件数は6件増加し、契約金額は1,562百万円減少(△30.8%)している。市町村からの1月の受注工事は前年同月比で、件数は27件、契約金額は176百万円増加(103.9%)した。御柱祭を直前に控え、茅野市では仮設トイレ設置工事が多く発注されている。

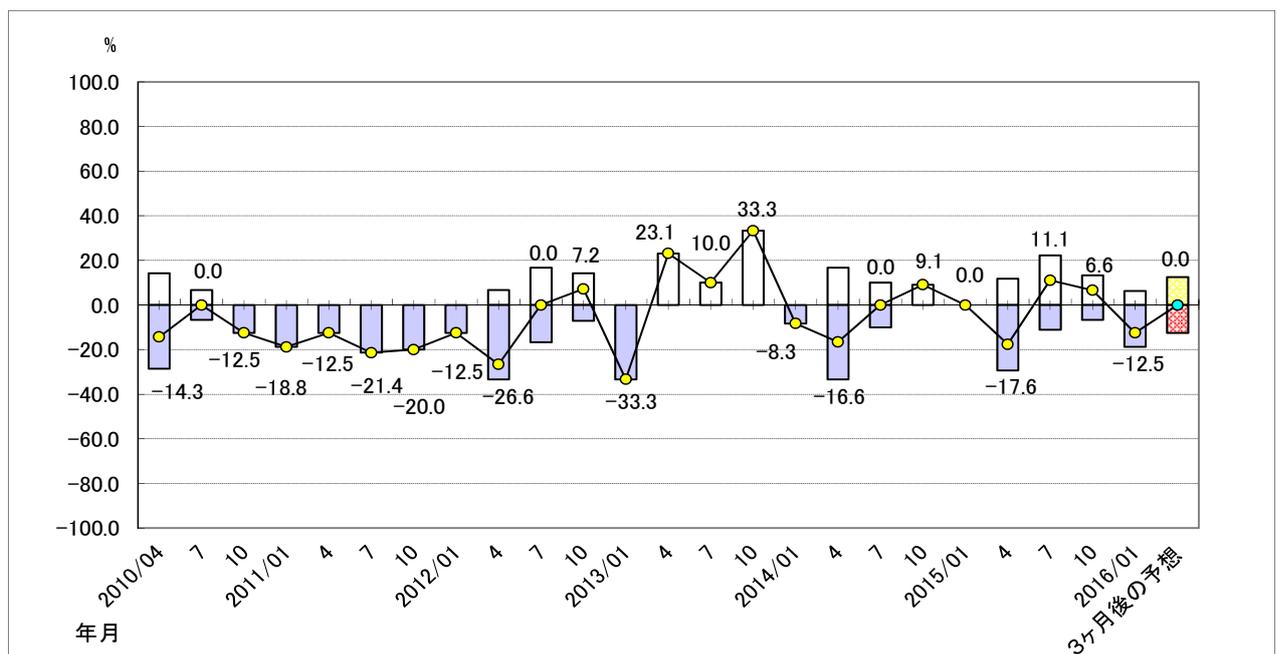
業況、受注状況、外注発注量

表-6

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	16	6.3	75.0	18.8	-12.5	16	12.5	56.3	31.3	-18.8	16	12.5	75.0	12.5	0.0
受注状況	16	12.5	50.0	37.5	-25.0	16	12.5	43.8	43.8	-31.3	16	12.5	50.0	37.5	-25.0
外注発注量	16	0.0	81.3	18.8	-18.8	16	0.0	68.8	31.3	-31.3	16	12.5	56.3	31.3	-18.8

#### ●建設業全社:「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-10



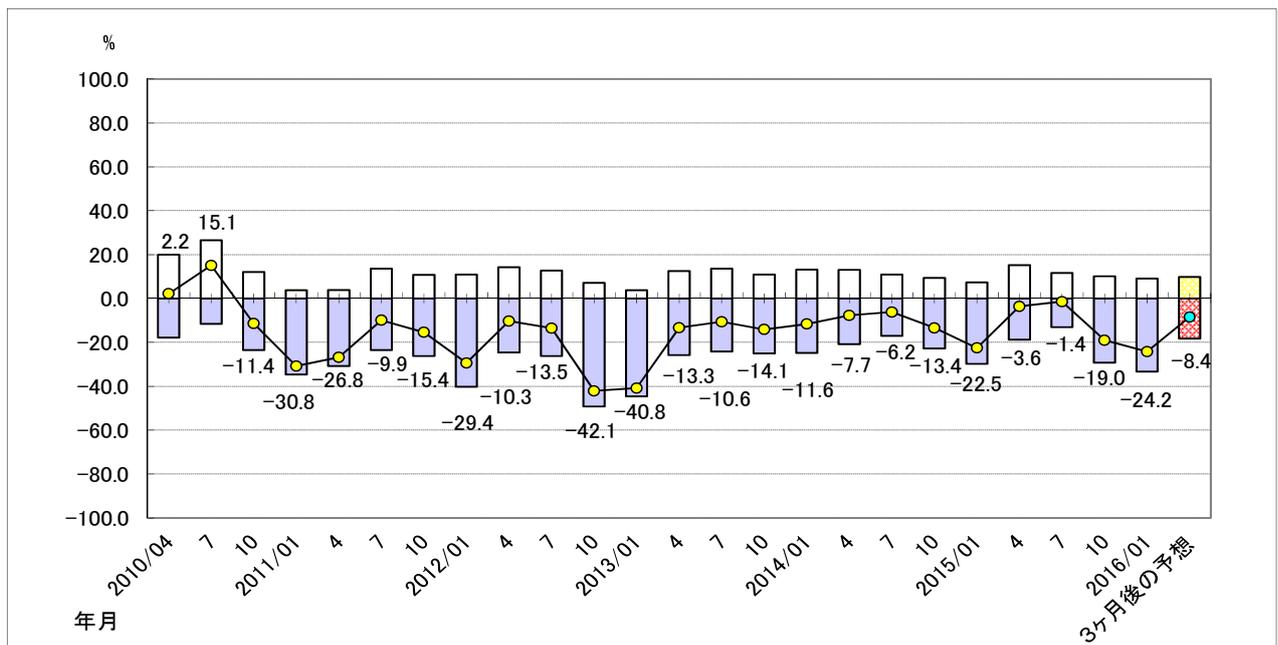
#### 4.収益性状況

回答全社の「3ヶ月前」と比べた収益性は「好転」企業 8.8%、「悪化」企業 30.4%で、同DIは△21.6と前回調査時の△11.5から悪化した。「前年同期」比は△14.5で、前回の△14.0とほぼ同水準で推移した。「3ヶ月前」と比べた製造業は△24.2で前回の△19.0から5.2ポイント悪化し、非製造業も△16.1で前回の4.8から悪化している。

「3ヶ月後」の予想DIは、製造業が△8.4で前回の△14.5から6.1ポイント改善し、非製造業は0.0で前回の△7.9より改善している。回答全社では△5.7で、前回の△12.4から改善している。

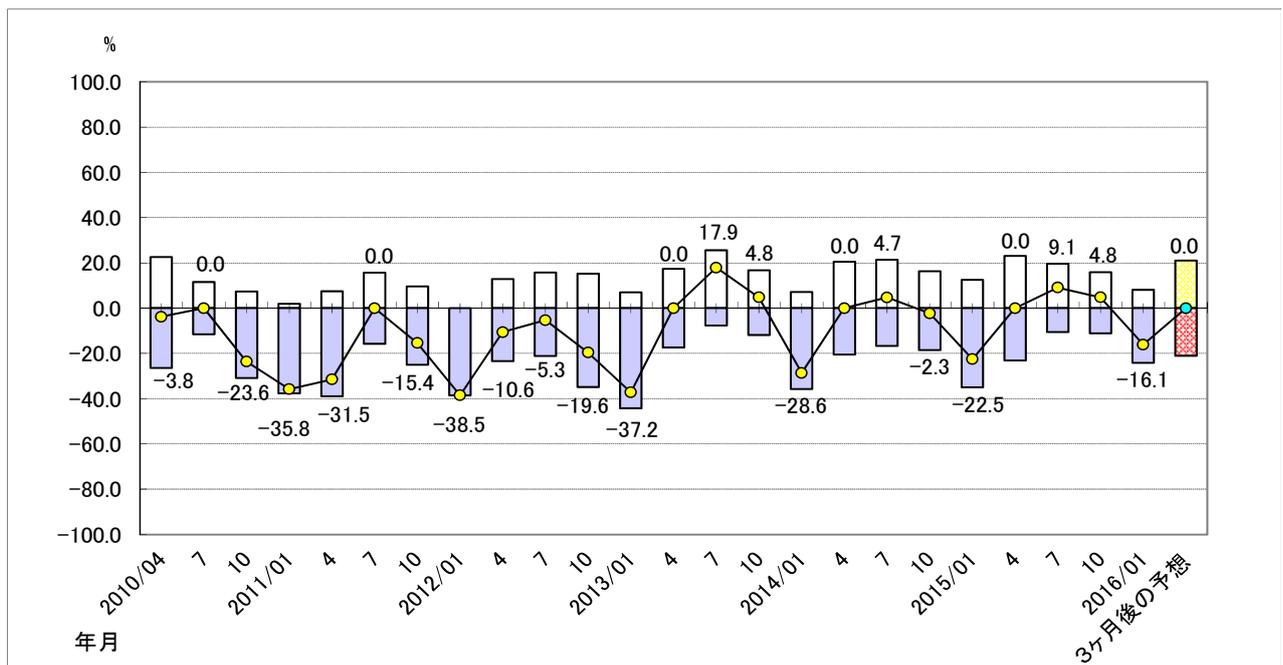
##### ●製造業:3ヶ月前と比べた収益性DI

グラフー11



##### ●非製造業:3ヶ月前と比べた収益性DI

グラフー



## 5.経営上の課題

経営上の課題として①製造業は、売上減少と労働力確保②商業は競争激化と売上減少③建設業は、労働力確保と競争激化④観光・サービス業は労働力確保、売上減少となっている。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	89	66	12	4	7
単価引下げ	27	20	0	3	4
競争激化	54	31	15	5	3
資金繰り	47	31	8	4	4
人件費	36	20	7	4	5
労働力確保	63	38	10	8	7

## 6.諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比
有効求人倍率【12月】	ハローワーク諏訪	1.31倍	0.26ポイント
手形交換高【1月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	5,020枚	△338枚
	金額	6,645百万円	△18百万円
	うち不渡り発生状況	枚数	0枚
	金額	0千円	0千円
電力使用量【1月】 (中電諏訪営業所管内)	電灯電力計	78,128 MWh	△14.5%
	高压電力計	93,295 MWh	△7.4%
	合計	171,423 MWh	△10.7%
車庫証明取扱件数【1月】(諏訪地方合計)		813件	2.0%
新設住宅着工戸数【H27.4~12月】(諏訪管内)		787戸	△2.0%

## 7.調査概要

DI調査:業況が「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値。

- ① 調査期間 平成28年1月末。
- ② 調査内容 「平成28年1月末」の実績と、「3ヶ月前」と「前年同期」の業績比較及び「3ヶ月後」の予想。
- ③ 調査方法 アンケート調査(回答数 下記⑦)及びヒアリング調査(約130社)。
- ④ 対象地域 諏訪地域全域。
- ⑤ 業種 製造業、商業、建設業、観光・サービス業。
- ⑥ 回答企業数 194企業。
- ⑦ 回答率 77.6%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業	合計
依頼数	170	40	20	20	250
回答数	132	30	16	16	194